

「学校の統・廃合に係る今後の方向性等について」
に係る意見等について

教育委員会

意見

- 1 複式学習指導では、学習に対する児童の主体性を育てることができるという強みはあるが、多様な考えに触れる機会が限れており、深まりに浅さを感じるが多々ある。
生徒指導面では、友達が固定化され、トラブルが起きた場合や意見が合わない場合に孤立して長期化する場合もある。大人数であれば、他の児童との関わりをもつ機会が増え、孤立することは少ないと思う。
学習面や運動面では、向上心や競い合う心（お互いを高める心）を育てることに、やや難しさを感じる。大人数であれば、お互いが切磋琢磨できる環境を整えられると思う。
体育の学習では、少人数のため、集団行動、集団ゲームが成立しない。（十分な指導ができない。）
- 2 少子高齢化が進む中、保護者や地域住民は、「いわゆる子供ファースト」の観点から、児童生徒の現状やめざす将来の姿を共有し、地域全体で育てる協働意識を高めるとともに、感情論のみでなく、建設的に学校の統・廃合については議論する必要があると思う。
- 3 市教委から示された令和10年4月を目途に進めていくことが望ましいが、保護者、地域住民には丁寧な説明が必要。本校は、令和9年度から全校児童が10人程度になる予想で、学年1人となるところが複数ある。そのような実態と合わせ、メリットとデメリットを継続して説明し、理解を得ていく。また、小中一貫教育校の意見については、他校区からの特認生がいないと少人数は解消されないため、解決策や人数確保の実現性を考慮して対応していく。
- 4 小規模校のよさ、課題について明確にし、よさを伸ばしながら課題解決の努力はしていく。その中で、極少数での学習指導には限界があること、統合に向けて、新たな児童の中でも力を発揮しながら交流を広げていく力を育てていることを示していく。
本校の場合、統・廃合ありきではないが、極少数になった場合、個に応じた指導が充実できたとしても、効果的な学習活動ができない点も説明していく。
- 5 本校は来年度も変則複式であり、時間割の組み方や担任以外による指導、中学校教諭の協力など、職員の負担が大きい。9年度以降は変則複式が解消されるが、通常学級にも支援の必要な児童が多く、複式指導が難しい学年もある。また、9年度以降の入学予定児童については、本校に確実に入学するのか未定であり、学級編制がどうなるのかも分からない。
小中一貫校にする場合、施設面の整備、在籍教員の所有免許による校務分掌の調整が必要であり、児童生徒数が少なければ職員も少ないので、負担軽減につながるかは疑問である。

6 統・廃合の対象になっている小規模校は、どこも特色ある教育活動を展開し、児童生徒の生きる力を育成するために努力しています。しかし、少ない人数では多様な考えの交流に限界がありますし、人数が少ないために活動が制限される面もあります。複式指導は2学年分の教材研究や準備のため、職員の負担も大きくなります。

そのような観点から、将来的に統合する方向が望ましいと考えます。

7 文科省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」によると、小・中学校の適正規模は「12学級以上18学級以下」となっている。その規模であれば毎年クラス替えができ、多くの仲間と切磋琢磨したり、人間関係づくりを学べたりするので理想的だと考える。

一方、小規模校はその特性から、一人一人が主役になる機会を作ることができ、複式授業では、子供たちだけで学習を進めるため、自学学習能力を高められることが期待できる。

適正規模の学校も小規模校も、それぞれよさがある。それを踏まえたうえで、統・廃合については、保護者の考えや意見を中心に、地域住民の理解を得ながら進めていくことが重要であるが、小規模校の教職員の困り感も大きいことから、教育委員会が総合的に判断して進めていくことが望ましい。

質問等

- 1 阿久根小の校舎は古いので、改修ではなく新築がよい。
- 2 統合に伴う通学は、バスを運営するべき。弾力化の通学もバスを出すべき。
- 3 特認校児童を受け入れた、近隣小規模校（複式の小学校）の統・廃合を、まず単式になる人数で実施してはどうか。（小規模校の児童はいきなり大規模校へという不安がある。）
- 4 尾崎小から転校した児童は、友達が増えたと生き生きと生活している。正直、もっと早く本校に来たらよかったのと思う。学年人数が1人、2人というのは、子供にとってよい環境とは言えないと思う。しかし、いきなり40人学級というのもストレスだと思う。20人程度の学級で仲間を感じたり、地域行事を体験したりするのがよいかと思う。
- 5 教育課程の共通化を図る時間の設定はいつぐらいにするのでしょうか。
- 6 朝の活動や日課表などの共通化を進めることが、小規模校の児童のスムーズな新学校生活を迎えられると思います。
- 7 折多小の子どもたちは、R9年以降は鶴中校区の子どもたちは阿中に進学するということですか？卒業後三つの中学校に分かれる中で、三笠中との小中一貫を進めていくのは強引な感じがします。
- 8 阿久根中は、移転 or 建て替えが理想では。まずは、そこにお金をかけてほしい。バリアフリー化も必要。津波のときの避難も考えるべき。
改修がどのレベルをさすのか。トイレが校舎の外にある。非常に使いにくい水道、こ

れはどうなるの。現状の校舎で対応できるのか。学年ごとに校舎が違うのは、生徒指導上の課題もある。